

ご協力いただいた乾癬の患者さんへ

研究報告 2023-2024

NPO 法人西日本炎症性皮膚疾患研究会



photo by Shinichi

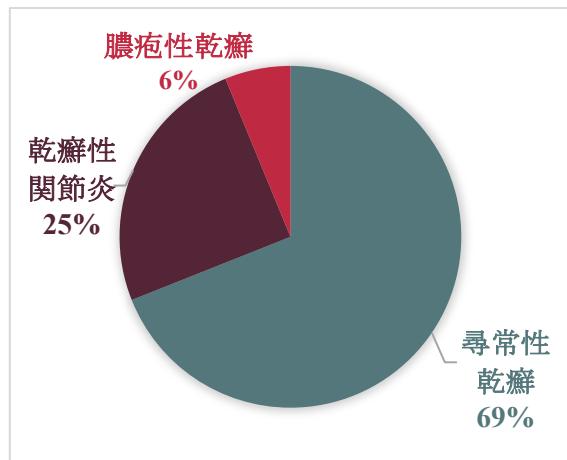
5年間で 2,704 名の方にご協力いただきました

乾癬の患者さんを対象とした大規模調査(レジストリ調査)は5年目となり、2023年12月までに延べ2,704名の方に参加していただきました。皆さんのご協力に深く感謝し、今年も研究報告書を作成しました。皆さんの乾癬治療のお役に立つことができましたら幸いです。

年1回の継続調査(アンケート)にご協力お願いします

本研究では年1回、継続調査(アンケート)を実施しています。現在の病状についてお聞かせください。

乾癬の病型(タイプ)



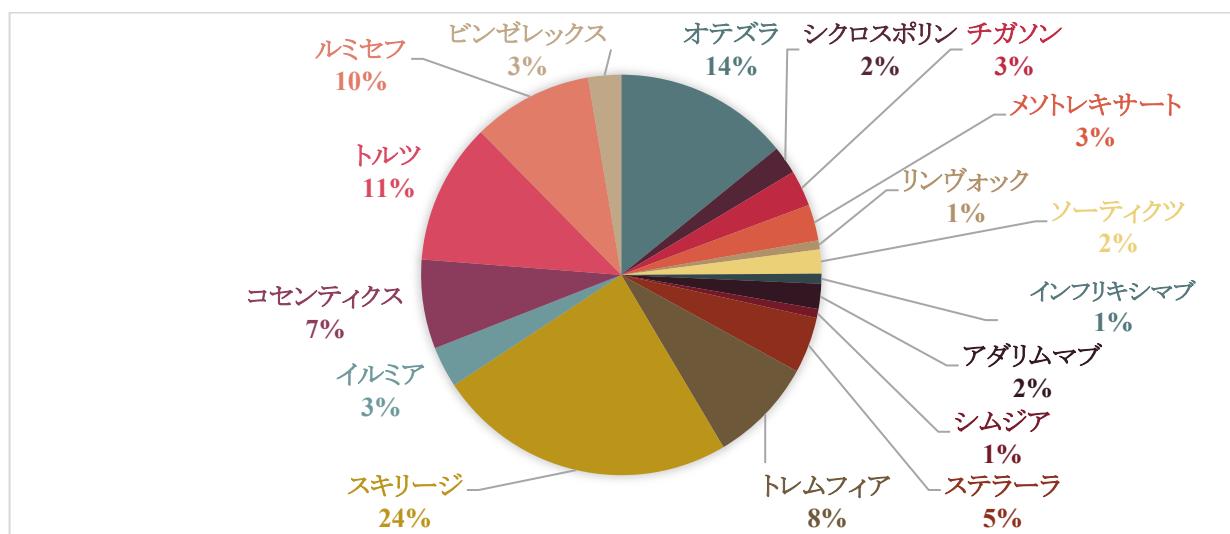
全体 2,704 名(男性 1,882 名、女性 822 名)、平均年齢 61 歳、罹病期間平均 21 年でした。

4 人に一人に関節炎があり、末梢関節炎(指などの関節が腫れる)79%、指炎(指がソーセージのように腫れる)51%、付着部炎(アキレス腱や足底、膝の内外側などが腫れる)42%、体軸病変(脊椎などの痛み)14%でした(重複あり)。

2023 年の年末時点で使用されていた乾癬の全身治療薬(内服・生物学的製剤)を病型別に紹介します。全身治療を行なっていたのは 1,861 名(全体の 69%)で、内服薬が 444 名(24%)、注射薬が 1417 名(76%)と注射薬の方が多く使用されていました。

尋常性乾癬の患者さんで使用されている薬剤

1,238 名

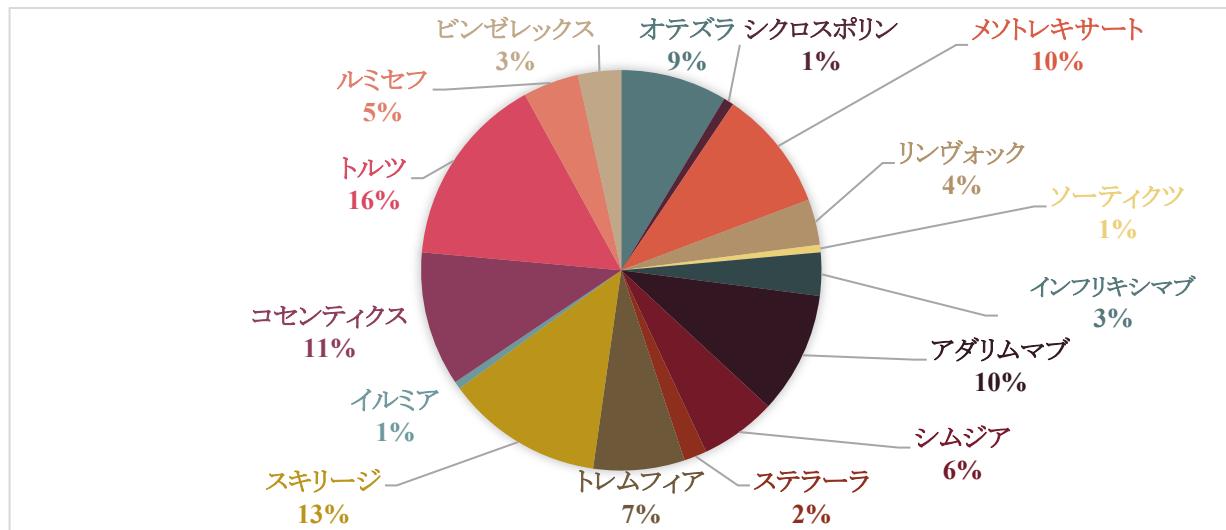


全身治療を行っている尋常性乾癬の方は 1,238 名で、内服薬のオテズラ(PDE4 阻害薬)、生物学的製剤の IL-23 阻害薬のスキリージ、トremフィア、IL-17 阻害薬のトルツ、ルミセフがよく使用されていました。2022 年 11 月発売の内服薬ソーティクツ(Tyk2 阻害薬)は 2023 年 12 月から長期処方可能となりましたので、最近始めた方もいらっしゃるかもしれませんね。

2024 年秋に尋常性乾癬とアトピー性皮膚炎の新しい外用薬であるブイタマークリームが発売されます。今後レジストリではブイタマーの使用割合を調査する予定です。

乾癬性関節炎の患者さんで使用されている薬剤

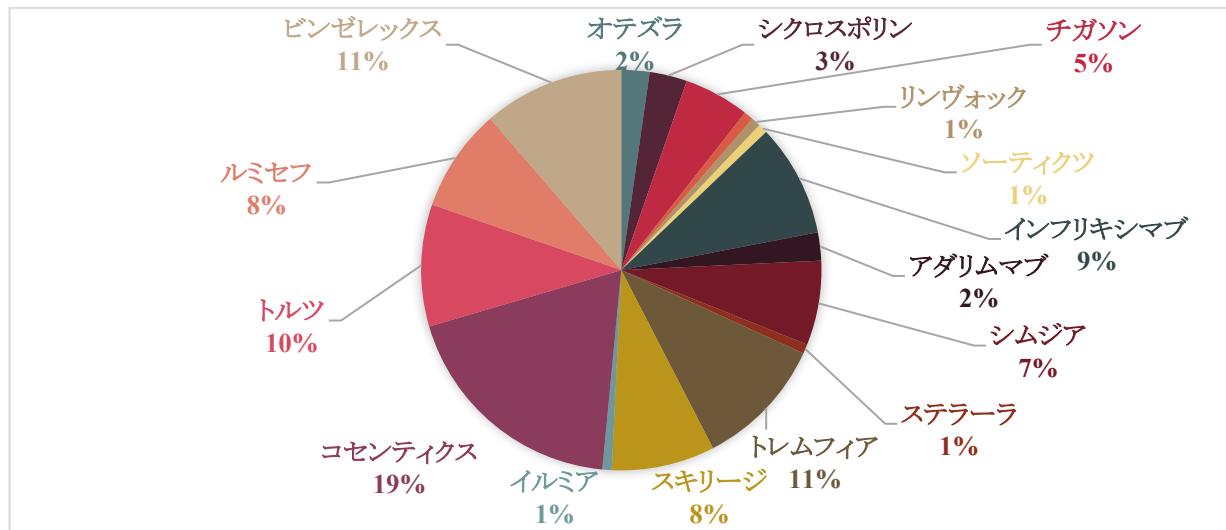
491名



全身治療を行っている乾癬性関節炎の方は 491 名で、内服薬のメトレキサート、オテズラ、生物学的製剤のヒュミラ (TNF α 阻害薬)、スクリージ、トルツ、コセンティクス (IL-17 阻害薬) がよく使用されていました。関節リウマチなどに使用される内服薬リンヴォック (JAK 阻害薬) は 2022 年から乾癬性関節炎にも使えるようになっています。

膿疱性乾癬の患者さんで使用されている薬剤

132名



全身治療を行っている膿疱性乾癬の方は 132 名で、インフリキシマブ (TNF α 阻害薬)、トレムフィア、スクリージ、コセンティクス、トルツがよく使用されていました。

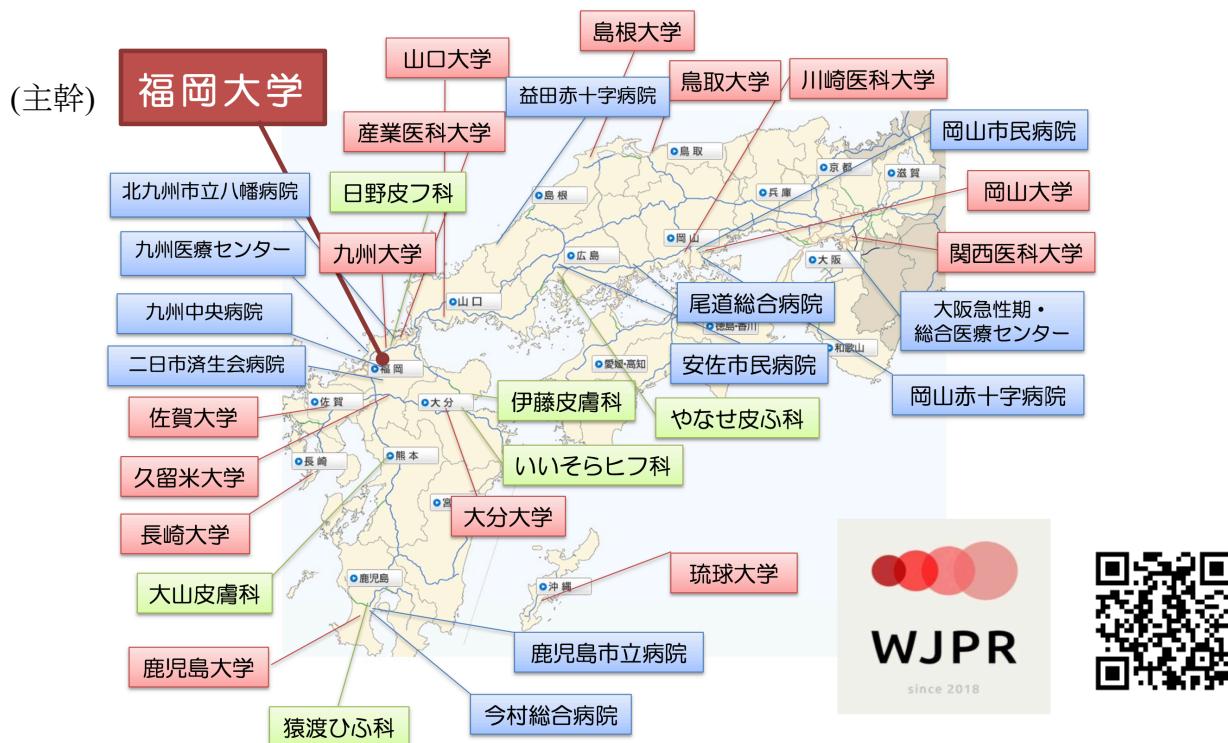
2022 年 11 月に膿疱性乾癬の急性症状に対する生物学的製剤スペビゴ (IL-36 阻害薬) が発売されました。急性期に 1 回もしくは 2 回使用するため上のグラフに記載はありませんが、2023 年には 4 名の患者さんに使用されていました。

ミニコラム: 乾癬とメタボと肥満、喫煙、飲酒について



メタボリック症候群は腹囲が男性 85cm・女性 90cm 以上でかつ血圧・血糖・脂質の 3 つのうち 2 つ以上が基準値から外れると診断され、心筋梗塞や脳卒中などを発症する危険性があり、肥満や喫煙、習慣飲酒をする人はメタボリック症候群になりやすいとされています。レジストリの乾癬患者さんと国民健康・栄養調査報告データを比較すると、BMI25 以上の肥満は男性患者 44.9% vs 国民 33.0%、女性患者 34.0% vs 国民 22.3%、喫煙は男性患者 40.8% vs 国民 27.1%、女性患者 15.9% vs 国民 7.6%、習慣飲酒は男性患者 51.6% vs 国民 14.9%、女性患者 23.7% vs 国民 9.1% などの項目も乾癬患者さんで多くみられました。乾癬の治療とともに禁煙と節酒、適度の運動とバランスの良い食事を心がけてくださいね。通院中の病院によっては禁煙外来や栄養指導を受けられることもありますので主治医とご相談ください。

【研究協力機関 (2024 年 9 月時点)】



研究会 HP (<https://npo-wjpr.com>) には理事長挨拶や事業案内、業績、研究報告書バックナンバーを掲載しています。上記の QR コードからぜひアクセスしてください。

研究会の活動は日本乾癬学会や複数の製薬会社からの寄付によって運営されています。病型別に使用者が多い薬剤を紹介していますが、特定の薬剤の使用を促すものではありません。また、一部適応外の薬剤が含まれるため、使用にあたっては担当医と相談し添付文書の確認をお願いします。

作成者: 研究会理事 鶴田 紀子(北九州市立八幡病院) 発行日: 2024 年 9 月 30 日